



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第14号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ:あなたの信仰があなたを直した エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(10)「種の壁を越えることは出来ない」
- ◎箴言から学ぼう!:悪から遠ざかり、善を行う
- ◎詩篇を読む:神さまに感謝(KJV:賞賛、賛美)を捧げるときに
- ◎キリストを信じた体験談:キリストは恵みを賜う方 ミカエル
- ◎聖書に関する偉人のことば:ウィリアム・ハーシェル
- ◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

＜聖書からのメッセージ＞

あなたの信仰があなたを直した
by エレミヤ

〔聖書箇所〕マルコの福音書5:25-34

5:25 ところで、十二年の間長血をわずらっている女がいた。

5:26 この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまっただが、何のかいもなく、かえって悪くなる一方であった。

5:27 彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわった。

5:28 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」と考えていたからである。

5:29 すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直ったことを、からだに感じた。

5:30 イエスも、すぐに、自分のうちから力が外に出て行ったことに気づいて、群衆の中を振り向いて、「だれがわたしの着物にさわったのですか。」と言われた。

5:31 そこで弟子たちはイエスに言った。「群衆があ

なたに押し迫っているのをご覧になっていて、それでも『だれがわたしにさわったのか。』とおっしゃるのですか。」

5:32 イエスは、それをした人を知ろうとして、見回しておられた。

5:33 女は恐れおののき、自分の身に起こった事を知り、イエスの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。

5:34 そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」

今回は、「あなたの信仰があなたを直した」との題で、聖書を読む上で大切な事柄を見ていきたいと思っております。何度も申し上げるようですが、聖書は世の中の他の本と異なり、非常に特殊な本です。私たちが信じようと信じまいと、「神御自身が著者」である、と唯一公言している本なのです。それで聖書を読む上で、大切なポイントを見たいと思っているのです。

あなたの信仰があなたを直した エレミヤ

聖書を愛読書としている人は欧米の偉人にも沢山います。また、日本でも芥川龍之介や太宰治のような著名な作家も聖書を愛読していました。現在の作家では、大江健三郎氏が同じく聖書を愛読していると記事で読んだ記憶があります。さて、このように聖書を読む人、聖書を通してキリストに触れる人、知識を持つ人はそれなりにおられるので、このことは大変良いことだと思っています。

しかし偉そうなことを申し上げるようで恐縮ですが、一つ聖書に関して知るべきことがある、と私には思えるのです。それは聖書を読むこと、知識を持つことは、一つのことではありますが、しかしそれを通してキリストに触れる、ということは、また別の事柄である、ということです。何か抽象的で分かりにくい表現でしょうか？冒頭のテキストからこのことを説明させていただきたいと思います。

このテキストの場面は、イエス・キリストの周りに多くの群衆が、それこそ押し合い、へし合いしている場面から始まります。生まれつきの盲人の目を癒したり、らい病を癒したり、多くの奇跡を起こすイエス・キリストは、それこそその当時の人々にとり、カリスマ的な人気を持った人物でした。それでこの時も、多くの群衆が彼の周りには押し寄せていたのです。

その集まった群衆の中には健康な人ばかりではなかったと想像出来ます。体の病、目、耳、足、手に病気を持っていたり、弱っていたりしている人も結構多かったかも知れません。彼らはキリストが自分の病を癒してくれる、と期待を持って、あちこちの地方からキリストの元に押し寄せてきたのかも知れません。そして皆、自分の病の癒しを心の中では求めていたのかも知れません。さて、それでこの時、誰の病が癒されたか？と言うと、聖書はキリストの周りに集まった全ての人の病が治ったとは書いていません。逆にこの時、たった一人の女性、長年長血をわずらっていた女性が癒されたことのみを記載しています。彼女だけがキリストによって癒されたのです。それでは彼女と他の癒されなかった病人との違いとは何なのでしょう？

ここで特徴的な記述があります。キリストは

この女が自分に触ったときのみ、「**自分のうちから力が外に出て行ったことに気づき**」ました。逆に他の群衆がキリストに対して押し合い、へし合いしていた時は何も気付かなかったのです。不思議な記述です。言わんとしていることは、沢山の群衆が押し寄せていたが、真の意味でキリストに触れ、キリストに接触したのはこの女だけであった、そう聖書は語っているように思えます。

他の多くの群衆は、たしかに物理的にはキリストの体や衣に触れていたかも知れませんが、しかしそれは、聖書的な意味合いでの「触れた」ことにならなかったのかも知れません。事実この時、キリストから癒しをもらったのは彼女一人だったからです。

彼女と他の人との違いは一体何なのでしょう？彼女に対してキリストはこう言われました。「**娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。**」すなわち彼女が癒された理由、また、彼女がキリストから助けを受けたその理由は、彼女の信仰にあるのです。そうです。彼女と他の病を持っていた人々との違いは、信仰にあるのです。その違いは多くの人の中で彼女だけがこのキリストによって必ず癒される、たとえ衣のふさに触るという行為だけでも必ずキリストを通して自分の病が癒される、と堅く堅く信じていたことなのです。

他の人はどうなのか？と言うと、病は持っていたが、たまたまもしかするとキリストに何か解決策がある、と漠然と思っていたかも知れませんが、彼らは聖書で言う意味合いでの信仰を持っていませんでした。

キリストが自分の病を癒す、と堅く信じていたわけでもない、さらに彼女のように実際に行動を起こし、キリストの衣に手を触れたりしなかったのです。悪く言うなら、彼らはとりあえずキリストのそばまでは来たが、それまでであり、キリストが自分の病を癒すと堅く信じることもせず、まして実際の行動に出て、信仰を持ってキリストの衣に触ることもしなかったのです。

あなたの信仰があなたを直した エレミヤ

それで同じ病を持っていたとしても、彼女と他の人々との間には差が出来てしまったのです。キリストにより癒された人と、そうでない人との差が出来てしまったのです。

さて、聖書のこのような記述は単なる昔話というのではなく、逆に現代において聖書を読む私たちが、一体どのようにキリストに接すべきか？ということをお教訓として書かれていることを知ってください。教訓とは何か？すなわち聖書を読むこと、キリストに関して知ること、知識を得ること、学ぶことは、一つのことですが、しかしそれは、あくまでこの箇所と言うキリストを取り巻く群衆の行いに過ぎない、ということです。もし我々が本当にキリストを通して実際の病の癒しを受けたり、人生の問題を解決されたりすることを望むなら、この女性に学ぶ必要があるのです。すなわち彼女のように「堅く信じてキリストに触れる」者のみ、真に癒しを受け、救いを受け、助けを受ける、という教訓を学ぶべきなのです。

じつは、聖書は信じる者こそ神からの助けを受ける、という記述に満ちています。たとえば以下です。

〔聖書箇所〕マルコの福音書9:23

9:23 **するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」**

〔聖書箇所〕マルコの福音書11:23

11:23 **まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海にはいれ。』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりにになると信じるなら、そのとおりになります。**

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書3:16

3:16 **神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**

聖書は神により書かれた書です。そして神には神の方法があります。もし、我々が本当に聖書で言う助けや救いを望むなら、その時は聖書の言う方法、神の定めた順序を尊重すべきであ

る、と私は思うのです。どれほど評判の名医の診察を受けることが出来るようになっても、患者がその医師の処方した薬を飲まず、医者からのアドバイスを受け入れないなら直る病も直りません。

同じように聖書は、ただ単にキリストに関する知識を持つ者に救いがあるとも、聖書を読む者に救いや癒しがあると語っているのではなく、逆にこのキリストを信じ、触れる者に救いがあり、癒しがある、と語っていることに耳を傾けてください。

個人的なことを言えば、私も自分のクリスチャン人生の中で、この女性のように真剣に神の助けを求め、それが答えられたことが何度かあります。ある時、私は自分の職場のために祈り求めたことがありました。当時いた職場は休みが少なく、残業が多く、遠い場所にあったので、とても教会の奉仕をするには難しい状況だったのです。それで私は少し厚かましいのですが、週休二日制、残業も少なく、家から一時間以内の通勤圏内、そして給料も今より高くなるように祈りました。そしてこれらの祈りの課題は皆答えられ、数ヵ月後にピッタリの職場が与えられました。その職場にとどまることにより、私はキリストの奉仕に専念出来るようになりました。キリストは信じる者の祈りに今も答えられることを知ってください。



長血の女とキリスト

高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(10)種の壁を越えることは出来ない

人はどこから誕生したのか?その問題に関して聖書は、「神が人を創造した」と述べます。しかし日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか?それをこのシリーズで見えています。

今迄見てきましたように、進化論はあくまで理論に過ぎず、実際に検証すると大いに間違えのある理論に過ぎません。今回は、「種(種類)」という観点からこのことを見ていきたいと思えます。聖書は神が動物や植物を創造されたとき、「種類に従って創造した」ことを述べます。以下の通りです。

〔聖書箇所〕創世記1:24,25

1:24 ついで神は、「地は、その種類にしたがって、生き物、家畜や、はうもの、その種類にしたがって野の獣を生ぜよ。」と仰せられた。するとそのようになった。
1:25 神は、その種類にしたがって野の獣、その種類にしたがって家畜、その種類にしたがって地のすべてのはうものを造られた。神は見て、それをよしとされた。

神はこのように生き物を種類にしたがって創造されました。そして、そのことをわざわざ聖書で述べています。ですので、この神の造られた区分、動物や植物の種(種類)の区分とは、ある意味、絶対的なもの、簡単には崩せない、超えることの出来ない区分であることが想像出来るのです。

犬という種(種類)とそれとは別の種(種類)である猫との間には決して越えられない壁、神の作られた絶対的な区分があるように理解出来ます。さて、このような聖書の神の語られた種に関することばに挑戦するかのように、ダーウィンは進化論を唱え、「種の起源」という本を書きました。

その本の中で彼は、「**現在ある全ての生き物の種は、始めは簡単な1種類もしくは数種の種から分岐して誕生した**」と述べました。すなわち、彼はそれぞれの種の間には絶対的な壁や区分が存在するなどとは認めなかったのです。さてこのように、「種」に関して聖書の見解とダーウィンの理論は全く異なるわけです。では、どちらが正しい

のでしょうか?

結論は既に出ており、聖書が正しくダーウィンは間違えています。現在では犬と猫のように各種(種類)の間の区分は絶対的なものでありこれを超えることは現実には不可能なことが証明されています。

すなわち、それぞれの種(種類)の間に神ご自身が不妊という壁を作って、神が定められた「種類」が混ざらないようにされたのです。分かりやすい例で言えば、ラバがその一例です。ラバは雄のロバと雌の馬の間に生まれた雑種です。そう聞くと馬とロバの種の壁が壊れた新しい種、あるいは「種類」が誕生したように見えます。しかし、あにはからんや、ラバの雄と雌とかけ合わせてラバの子どもを作ることは不可能なのです!不妊という不動の壁を越えることは出来ないのです!より多くのラバを生むためには、雄のロバと雌の馬を交配し続けるしか方法はないのです。神が定められたこの生物界の原理は、著名な進化論者の動物学教授であるリチャード・B・ゴールドシュミット教授によって立証され、こう書かれています。「**種の境界線を越えたケースはなく、その種に最もよく似た次の種の間にも、不妊という乗り越えられないギャップがある。**」(「進化論の物質的基礎」R.ゴールドシュミット著。165ページ)

かくのごとく、「種」という一点を考えて見ても、ダーウィンの進化論とは人間の浅知恵に基づく理論に過ぎないことが分かるのです。



ラバは不妊であり、神の定めた種の壁を越えることが出来ない

箴言から学ぼう！：悪から遠ざかり、善を行う

〔聖書箇所〕箴言14:22

14:22 悪をたくらむ者は迷い出るではないか。善を計る者には恵みとまことがある。

私たちが意識するかどうかは別として、客観的に見てこの世の中はどちらかと言えば「善」よりも、「悪」のほうが多いですよ？たとえば窃盗、殺人、いじめ等をはじめ、暇なくあらゆることが起きています。そうです。たしかに「悪」はこの世の中に氾濫しております。それは紛れも無い事実であります。けれどもクリスチャン、ノンクリスチャン問わず、世の中の「悪」に辟易していらっしゃるお方の中にはおられるのでは？と思います。そのような方に朗報があります。それは、聖書において「悪」に関しては、ひとつも良いことが述べられていない、ということです。以前もチラッと話をさせていただきましたが、聖書は全部で66巻から成り立っている書であります。しかしその中で「悪」を奨励している箇所は一箇所も見当たらないので、「悪」に関してはそれだけ“N o”と言われていることがご理解いただけるのではないかと思います。

事実、今回の聖句においてもそういうことを言われているのでは？と思います。「**悪をたくらむ者は迷い出る**」とあります。細かい話で恐縮ではありますが、「迷い出る」のところは英語訳では「間違い」とか「誤り」とあります。そうなんです。悪＝間違いである！ということズバリ言われているのです。ですからたとえこの世の中とか周囲の人々が悪を行っていたとしても、しかしそのことに同調したり、同じ道に入らないようにしたいと思います。そうしてしまうときに、神さまの前に「間違い」と見なされてしまうからです。そしてそれは、この世でもそうかも知れませんが、後の世でさばきの座に立ったときに神さまから悪い判断や報いを受けてしまう可能性がありますので、気を付けていきたいと思えます。たとえ些細なことであっても、しかし、「悪」からは遠ざかっていくように心掛けていきたいと思えます。そして、「**善を計る者には恵みとまことがある。**」とありますように、「善」を行っていききたいと思えます。

それでは、「悪」とはどんなことなのか？このことに関して、この章や他の箇所の中からこんなことかな？と示されたことがありますので参考として少し挙げていきたいと思えます。箴言12章で、「**人は悪をもって身を堅く立てることはできず、**」とあるのですが、「悪」のところは英語訳では「意地の悪い」とも訳されています。また、同章17節におい

て、「**短気な者は愚かなことをする**」ということが書かれています。「短気」のところは英語訳では「すぐに怒る」とあります。さらに同章21節では、「**自分の隣人をさげすむ人は罪人**」とあります。「さげすむ」のところは英語訳では「見下す」と訳されています。このことは一例ではありますが、人に意地の悪いことをしたり言ったり、あるいはすぐに怒りを発したり、また、人を見下したりしてしまうときに、神さまの前にはどうも「悪」と見なされてしまうようですので、こういった罪に入ってしまうことのないようにしたいと思います。

それから「意地悪」ということばで、ある人の話を思い出したのですが・・・随分前のことですが、教会に外国から来た御夫妻がおられました。奥さんがはじめにクリスチャンになったそうなのですが、当時ノンクリスチャンだった御主人は奥さんに対して度々意地悪なことを言ったりしたりしていたそうです。けれどもある時それはとんでもない間違いであった！ということに気付いて心から悔い改めたそうです。その後、イエス・キリストを御自分の救い主として信じて受け入れてクリスチャンになったそうですが、かつてそのようなことをしていたときには心に喜びや平安が無かったということをおっしゃっていたように思います。でも、そのことをやめて180度方向を変えるようになってから人生が一変された、というようなことを言われておりました。

では、さいごに「悪」から離れるにはどうしたら良いのか？そして「善」を行うには？ということについて簡単に述べさせていただきたいと思えます。先ほど紹介させていただいた「悪」に関する全ての反対を単純に実践していけば良いのでは？と思えます。このことは著者がこんなことかな？と持っていることですので、当たっているかどうかは分かりませんが、よろしければ参考にいただければと思えます。「意地悪」に対しては「親切」に、「すぐに怒る」ことに対しては「穏やか」に、「人を見下す」に対しては「人に対して情け深く」という風にしていけば良いのでは？と思えます。このようにわずかでも行っていくのなら、神さまからも人からも喜ばれますので、もし、そうかも知れないなあ、なんて思われましたら、ぜひ実践してみてください。



善を行う時に喜びで満たされる

詩篇を読む・神さまに感謝(KJV:賞賛、賛美)を捧げるときに

〔聖書箇所〕詩篇9:1

9:1 私は心を尽くして主に感謝します。あなたの奇しいわざを余すことなく語り告げます。

この聖句は、ダビデ王が神さまに向けて語ったことばです。このとき彼は「感謝」と「奇しいわざ」のことを言われました。

さて、この世の中において、何か良いことがあっても神さまに感謝をする、という概念はほとんど無いと思います。はたまた良いことどころか、悪いことが起きたら感謝どころか、苦い思いが込み上げてきたり、不平や不満やつぶやきが口から出てくるなんていうこともありますよね？ところがですね、聖書においては神さまに対して「感謝」することや「賛美」ということが、あちこちに書かれているのです。ちなみに新改訳聖書では旧新約合わせて「感謝」ということばは152箇所、「賛美」ということばは93箇所出てきます。ゆえに聖書の著者である神さまがいかにこのことを強調されているかをお分かりになるとと思います。もちろん一切強制は無いのですが、しかし結構大事なことなのでは？と著者自身は思いましたので、お話をさせていただきたいと思います。よろしければ引き続きお読みください。

ところで感謝して一体どんな良いことがあるのか？と不思議に思われる方もいらっしゃるでしょう。そのことに関してこういう話を小耳にしましたのでよろしければ紹介させていただきたいと思います。

ある牧師さんがメッセージの中で語っていらしたことで、随分前のことですのでうろ覚えではありますが・・・その牧師さんのお知り合いに医師の方がおられて、このようにおっしゃっていたそうです。「私が担当している患者さんなのですが、癌の方で何人か完治した人がいるんです。それでそういう人の特徴なんですけどね、癌になったことを感謝するそうなんですよ。『癌さん、ようこそ私のところに来てくださり、ありがとうございます。』という風に、です。さらにまだあって、そういう人たちの中で自分が癌になったこととか、また、そのことで辛いことや苦しいことに対して愚痴や不平や不満を言った人は一人もいませんでした。」ということをおっしゃっていたそうです。その患者さんたちがクリスチャンだったのかどうかは分かりませんが、いずれにしても「感謝」をして、なおかつ愚痴とか不平とか不満を一切言わなかった結果として完治された

というのは事実だと思います。著者の想像なので当たっているかは分かりませんが、神さまは天からご覧になられていて、そのようなことをお喜びになられて、報いてくださったのではないかと思います。

今、お話をさせていただいたことは、良いことが起きてそれで感謝したのではなく、その逆のことではありますが、こういったことはまさに上記聖句の「あなた(神さま)の奇しいわざ」にそのまま通じるのでは？と思います。この世の常識では考えられないことですし、普通こういう感覚は無いかも知れませんが、しかし実践するならば、実際に神さまの奇蹟を体験したり、目の当たりにすることが出来るのです。ですので「感謝」とか「賛美」ということはダテに言われているのではなく、実行に値するものである、と言えるのではないかと思います。それからもし、その方たちのように特別なことが起きなかったとしても、しかし神さまの奇蹟を体験することは可能です。それはどういうことか？と言うと、クリスチャンが歌う賛美の中に、「感謝が満ちると主の平安がおとずれる」という内容の歌詞があるのですが、何か嫌な目に会ったり、悪いことや大変なことが起きたりしたときに、感謝(賛美)を捧げることによって、たとえ状況に変化が無かったとしても、内側は平安で満たされていくようになるのです。はじめは苦しかったり、辛かったりしたとしても、あるいはそういう思いがなかなか消えなかったとしても、しかし諦めずに何度も何度も繰り返していくうちに、やがては喜びや平安に心が変えられていくのです。このこともある意味、神さまの「奇しいわざ」だと言えるのです。そして神さまが良し！とするならば、状況も変えていただいたりすることも出来るのです。信じられない！と思われるかも知れませんが、もし本当に実践をするのでしたら実態が伴いますのでよろしければ、ぜひおすすめいたします。

いかがでしょうか？神さまに感謝(賛美)することは素晴らしいことだと思いませんか？もし、わずかでも、そうだなあ、なんて思われましたら実践してみてください。神さま(イエスさま)に感謝(賛美)を捧げる全ての方に、神さまの奇蹟や喜びや平安がありますようにお祈りしています。



神さまに感謝を捧げる

キリストを信じた体験談:キリストは恵みを賜る方(ミカエル)

私は3年間の中学生生活をミッション系学校の寄宿舎生活の中で過ごしました。1年生の時にキリストを信じバプテスマを受けましたが、次第に学校に深い馴染みを覚える事がなくなり、卒業してからはキリスト教とは関係のない公立の高校へ進学するようになりますと、完全に教会からは足が遠のいてしまいました。中学の頃の寮生活では、礼拝や聖書の学びは曲がりなりにも習慣化されたものでしたが、学校を出てしまうと教会礼拝への参加と聖書の学びはなくなってしまいました。それが15歳の中頃の事です。高校在学中の学業はよくなかったため、卒業したらすぐに社会人として働きに出ました。親元を離れ社会へ出て生活してゆく中で、私の身には何時も都合なことや災いが続きました。キリストを信じてバプテスマを受けてからは程度の差こそあれ何時でもキリストを信じているのですから、どこかの時点で教会へ行けばよかったのですが、私にはどの教会へ行くべきか、わからないままに、あるいは敢えて目を背けて長い年月を無為に過ごしていました。その為教会から離れている期間に於ける神からの鞭を人一倍多く喰らう事になってしまっていたのです。

今では、本来神様の御心は信徒が教会に所属する事を望んでおられると知るようになりました。また教会は神の家でありそれに連なり礼拝に参加する事により生活全般での神の守りの与えられる恵みの場所だと思っています。教会から離れていては信仰は弱く、霊的な恵みが与えられず却って神の怒りを買うのです。なぜなら聖書の中で神ご自身が(私は妬む神であると宣言しておられます。)神の民となった者が不信仰になり神に背を向け神から離れる時、神の妬みと怒りを買うようです。どのクリスチャンにも当てはまる事柄なのでしょう。今までの私にはその事がよくわかっていませんでした。この事は聖書に書かれた神の民イスラエルの歴史から学ぶことが出来ます。

多くの場合神が懲らしめの道具として使われるのが、神の御心から外れた親戚の者たち(神の民イスラエルに似ているがポイントがずれた者たち)を用いると言う事です。かつて神に愛されたアブラハムの子孫である神の民イスラエルの国が神に対して不信仰になった時、神は同じ血の繋がりのある兄弟民族を使ってイスラエルを攻め、懲らしめました。たとえばアブラハムの甥ロトの子孫であるところの近隣の民族モアブやアモンの民を使ってイスラエルを苦しめさせ、あるいはイスラエルの兄弟エソウの子孫エドム人を使い、御心のイスラエルの民を神への

信仰に立ち返らせる為に鞭として用いたのです。このことは今の時代にも言えると思います。どういう事かという、御心でないポイントのズレている誤った教理を掴む者達を用いて神の民を懲らしめるという事です。目的はキリストへの真の信仰に立ち返らせるためです。昔も今も同じでその内面の霊的な違いにより誤った教理を掴むものが兄弟を懲らしめるために用いられ、また迫害するのです。

神の目的は私たちを神なるキリストとの愛の結び付きに入れることです。キリストとの愛の結び付きを心から望むならば誤りから正され、キリストが聖書のなかで書かれた事の本当の意味を知らせて、その御言葉のポイントに留まらせてくださいます。たとえ迫害者であってもそうなのです。私は2008年にレムナント教会を神の導きによって示され、それより日曜礼拝に参加させていただいています。実に1976年来神から離れ放浪していた年月は32年間になります。この間いつも神の怒りを買っていた者ですが、今はそれまでのようなトラブルや災いが極端なくなっています。また霊的な盲目であった者であり、長い年月の間の不信仰による霊的な病状の私ですが、教会に通うことにより教会の王なるキリストの憐れみによって少しずつですが、霊的に癒されている実感を持っています。そして少しずつですが霊的な盲目も癒されて聖書の理解が進むようになっていきます。まだ至らぬものですが、キリストへの愛を深めることが出来るように願い求めています。

かつて神に背を向けて敵対し神の怒りを買った歩みの私に今所属している教会を示して下さった神様に感謝しています。皆様も教会に興味をお持ちでしたら、礼拝へ参加なされて神の恵みを受ける事をお勧めいたします。キリストは、キリストを信じ受け入れるすべての人に恵みを賜る方です。



キリストは教会を通して恵みを賜る

聖書に関する偉人のことば:ウィリアム・ハーシェルのことば/お知らせコーナー

<聖書と偉人>

18～19世紀イギリスの天文学者。天王星の発見者。多くの天文学的発見をなし、恒星天文学の祖。



ウィリアム・ハーシェル

人間の発見はすべて、ただ、聖書に含まれる真理を確認するのに役立つものであると思われる。

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

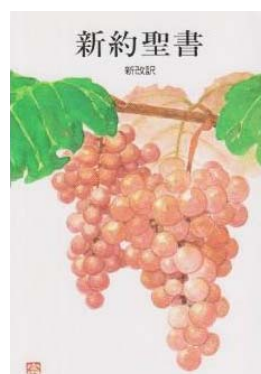
以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

- (1) 聖書贈呈に申し込みます。
 - (2) 聖書通信講座に申し込みます。
- *ご希望の番号に○をつけてください。(複数可)

郵便番号:

住所:

名前:



見本

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoj.jimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>